

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	313質の高い既成市街地の整備		
施策のねらい (めざす姿)	賑わいと魅力あふれる中心市街地が形成されています。 自然と調和した質の高い居住環境が整備されています。		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	マネージャー氏名	若泉 哲也

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	東武鎌ヶ谷駅西口地区においては、施設整備が完了した中で、地域活性化に向けた検討を行う。 初富駅、北初富駅地区の整備については、新京成線連続立体交差事業の進捗を見ながら、関係機関との協議を進め、整備方針を決定する。	③改革・改善内容	新京成線連続立体交差事業の進捗を見据え、両駅周辺の整備については、関係機関との協議を踏まえた整備を、地域の理解と協力を得ながら計画的に進めていく。
②①に基づく取り組み結果	東武鎌ヶ谷駅西口地区において、地域の活性化に向けて、地元まちづくり団体等との意見交換を行った。初富駅地区については、事業の基礎資料として現況測量を実施し、併せて地権者等へ事業の周知を行った。北初富駅地区については、将来の駅前広場について、関係機関との協議及び用地取得に向けた地権者交渉を継続的に行った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	初富駅周辺地区、北初富駅周辺地区、周辺市街地	意図(対象をどうするのか)	都市基盤の整備により、安全性・利便性・快適性が確保され、中心市街地については賑わいや、住宅地については質の高い居住環境を創造する。
②施策の概要	初富駅や北初富駅周辺地区では、都市基盤の整備により、安全で利便性の高い駅周辺機能を確保する。周辺市街地については、開発行為などにより、質の高い居住環境へ誘導していく。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線連続立体交差事業については、整備に一定の目途がついてきたことから、駅周辺機能の確保について、当該事業と連携を図り計画的に進める必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27～28年度の施策の成果	東武鎌ヶ谷駅西口では、地元まちづくり団体等と意見交換を行った。初富駅地区については、整備方針を策定すると共に、必要な用地(一部)を取得した。北初富駅地区については、関係機関協議を行うと共に、整備に必要な用地(一部)を取得した。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	目標値(32年度)
	i	鎌ヶ谷市を住み良いと答えた市民割合(市民意識調査)	%	—	—	—	55.0
	ii	既成市街地整備事業着手地区数	地区	2	2	2	2
	iii						
③基本事業成果指標	i	都市軸形成促進事業整備箇所数	箇所	2	1	1	1
	ii	近隣商業拠点整備事業整備箇所数	箇所	0	1	1	1
	iii	鎌ヶ谷市を住み良いと答えた市民割合(市民意識調査)	%	—	—	—	55.0
	iv						
	v						
	vi						
	vii						
	viii						
	ix						
④施策の事業費	平成27年度決算	平成28年度決算	市民一人あたり事業費(28年度決算)		平成29年度予算		
事業費(千円)	35,528	14,711	(単位:円)		135円	10,262	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	新京成線連続立体交差事業の進捗を踏まえると、計画の段階から、さらに整備に向けた事業の実施の段階となるが、関係機関等の協議や、市民の理解と協力を得ながら進める必要がある。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	指標には表れないものの、関係機関との協議を踏まえ、整備方針や計画の策定に努めてきた。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する事務事業	都市軸形成促進事業		
④上記方向性の説明	新京成線連続立体交差事業の進捗を踏まえ、駅周辺機能の確保のため、計画的に整備を進める必要がある。		